

■ 初期消火の3原則

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、速やかに119番通報を。また、初期消火で火を消せなかったら、素早く避難しましょう(市内で火災が発生した際には、よいちメールでも情報を配信しています)。

1 早く知らせる



- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求め。声が出なければ、やかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する



- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなどの手近なものを活用する。

3 早く逃げる



- 家に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

■ 火元別初期消火のコツ

油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火をする。

電気製品

いきなり水をかけると感電の危険がある。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーを落とす)消火をする。

衣類

着衣に火がついたら脱ぐ・叩くなどして消火をする。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎるなどして火元を天井から遠ざけ、その上で消火をする。

石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火をする(斜めにかけてと石油が飛び散って危険)。石油が流れて広がっていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火をする。

風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火をする。

■ 消火器の使いかた

粉末・強化液消火器の場合

- 1 安全ピンに指をかけた上に引き抜く。
- 2 ホースをはずして火元に向ける。
- 3 レバーを強く握って噴射する。



■ 消火器の構えかた

- 風上に回って消す。火炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

■ 火災警報器の設置義務

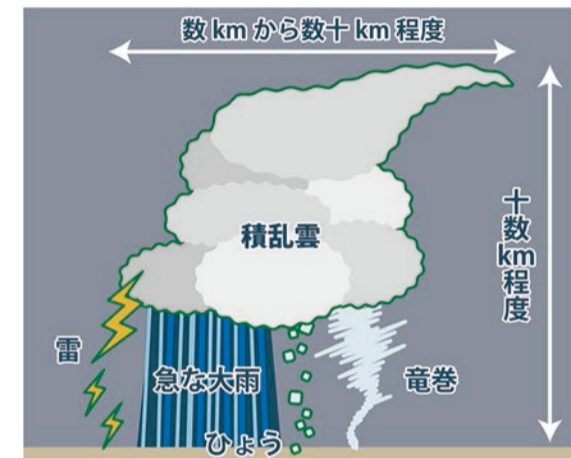
消防法により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

- 火災警報器の設置場所
- 寝室… 全ての寝室(子供部屋や高齢者の居室など就寝に使われている場合は対象になります)への設置が必要です。
 - 階段… 寝室のある階の階段上部(天井など)に設置が必要です。

火災予防が一番!

竜巻対策

発達した積乱雲からは、竜巻、ダウンバースト、ガストフロントといった、激しい突風や雷をもたらす現象が発生します。竜巻は、積乱雲に伴う強い上昇気流により発生する激しい渦巻きで、多くの場合、漏斗(ろうと)状または柱状の雲を伴います。



積乱雲が近づくサイン

- 真っ黒い雲が近づいてきた
- 急に暗くなった
- 雷の音が聞こえてきた
- 急に冷たい風が吹いてきた
- 大粒の雨やひょうが降り出した

「竜巻」が間近に迫ったら・・・

いろいろな物が猛スピードで飛んできます!

屋外では

- 頑丈な構造物の物陰に入って、身を小さくする
- 物置や車庫、プレハブの中には入らない
- シャッターを閉める
- 電柱や太い木には近づかない

屋内では

- 窓から離れる
- 窓やカーテンを閉める
- 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る
- 1階の窓の少ない部屋に移動する

竜巻に遭遇した人からは次のような声を聞きます。このような場合には、あなたの身に危険が迫っています。

- 雲の底から地上に伸びる漏斗(ろうと)状の雲を見た。
- 飛散物が筒状に舞い上がるのを見た。
- ゴーという音がしたのでいつもと違うと感じた。
- 気圧の変化で耳に異常を感じた。

竜巻注意情報(気象庁)

<https://www.jma.go.jp/jp/tatsumaki/>



雷対策

雷は、大気中で大量の正負の電荷分離が起こり、放電する現象です。

「雷」から身を守るには・・・

雷は、雷雲の位置次第で、海面、平野、山岳などところを選ばずに落ちます。近くに高いものがあると、これを通して落ちる傾向があります。グラウンドやゴルフ場、屋外プール、堤防や砂浜、海上などの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。鉄筋コンクリート建築、自動車(オープンカーは不可)、バス、列車の内部は比較的安全な空間です。

安全な空間に避難できない場合は・・・

近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に退避します。高い木の近くは危険ですから、最低でも木の全ての幹、枝、葉から2m以上は離れてください。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

遠くで音がしたらすでに危険な状態です! 安全な場所へ移動しましょう。



雷ナウキャスト(気象庁)

<https://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>



停電情報公開サイト(東京電力)

<https://teideninfo.tepco.co.jp/>



停電地域、発生日時、停電件数、復旧見込み日時などホームページから停電情報をご確認いただけます。